

「文字なき文明の名もなき名工たち—古代アンデス研究の新展開」

Artesanos anónimos y sus historias sin texto: Nuevas corrientes de la arqueología andina

主催：東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 共催：BIZEN 中南米美術館
後援：ペルー大使館、コロンビア大使館、エクアドル大使館、目黒区教育委員会、東大駒場友の会
協力：日本ペルー協会、日本コロンビア友好協会、東京大学総合研究博物館、岡山県立大学

南米大陸の西海岸の諸国は、太平洋以外に隔てるものがない、日本の隣人です。このたびペルー、コロンビア、エクアドルと我が国の、長きにわたる人的、外交的、そして学術的交流を記念して、特別展「文字なき文明の名もなき名工たち—古代アンデス研究の新展開」を開催いたします。

かつてユーラシア大陸から北米大陸へと一握りの人類集団が渡り、その子孫が紀元前 9000 年ころ、南米大陸のアンデス山脈一帯に到達しました。多様な資源に富んだその環境に適応した人びとは、独自の感性をもって世界観を構築しました。紀元前 3000 年頃までにエクアドルやコロンビアに広まった土器や土偶、同じころペルーに建ち並び始めた壮麗な建築群には、古代アンデスの人びとの祈りが表現されています。工芸品や神殿に体现された信仰は人びとの連帯の基層となり、アンデス文明と呼ばれる大規模で複雑な社会が、その中から形成されていったのです。やがて 16 世紀にこの地に到達したヨーロッパ人は、インカ帝国や、タイロナなど周辺の諸文化の豊かさに驚嘆しつつも、武力によってそれらを征服しました。人類史における敗者となってしまい、また自らの歴史を記録する文字の体系がなかったために、アンデス世界はその後長らく、西洋中心的な歴史記述の中で脇役に追いやられることとなりました。

今日、アフリカ大陸とユーラシア大陸の大河流域に発祥した「四大文明」という語は、世界史教科書から消えつつあります。中米や南米に発祥した文明もまたたいへん古い歴史を持ち、経済や技術が高度に発達し、世界的に見ても常に大規模な人口を擁していた、成熟した社会であったからです。それを解き明かしてきたのは、歴史学、人類学、近年では古環境学やゲノム科学などの多様な研究分野であり、それらを結びつけるのが考古学です。古代アンデスの考古データは例えば、文字も車輪もミルクもなしに社会は飛躍的に発展しうる、と我々に示してくれます。60 年前に東京大学がペルーの考古学に着手したのが発端となり、今や日本は新大陸考古学の国際的な拠点のひとつとなって、人間とは何かという問いを発信し続けています。

本展では、日本を代表する中南米古美術コレクションである、BIZEN 中南米美術館収蔵の陶芸作品を中心に、古代アンデスの造形美術の妙趣を披露します。文字なき文明であった古代アンデスの人びとは、世界史の表舞台から消えてしまい、その名こそ今に伝わっていないものの、いかに豊かな感性を持ちあわせていたのか、遺された工芸品の数々が雄弁に物語るでしょう。またコトシュ遺跡やクントゥル・ワシ遺跡などにおける、日本アンデス調査団のフィールドワークの成果や、博物館に収蔵された土器を CT スキャンと再現実験によって解析し、音を鳴らす機構を組み込んだ高度な陶芸技法に迫る試みなど、古代アンデス研究の来歴と、多様な展開について紹介します。

関連企画（詳細は当館ホームページにてご案内します）

・記念講演会

2019 年 4 月 13 日（土）と 6 月中の毎週土曜日

14:00～16:00 事前申込不要

東京大学駒場 I キャンパス 学際交流ホール

・ワークショップ

2019 年 5 月 18 日（土） 14:00～16:00

東京大学駒場博物館 2 階展示室

（参加者募集の方法は当館ホームページにてお知らせします）



お問い合わせ先：

東京大学駒場博物館 153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1 Tel：03-5454-6139 Fax：03-5454-4929 <http://museum.c.u-tokyo.ac.jp>